

平成30年度障害者支援施設青松苑事業報告書

障害者支援施設青松苑は、利用者の重度化・高齢化、医療的ケアの増加など多様化している中で、利用者個々のニーズに応じたサービスの提供体制を整備するとともに、利用者の方が、快適な環境のもとで、個人の尊厳と意思決定を尊重したうえで、個別支援計画に基づき質の高いきめ細かな福祉サービスを提供するため、「平成30年度社会福祉法人けやきの村事業計画」に基づき、関係法令を遵守し、適切な支援と専門的サービスを提供するために、次の各項目にそって事業を行った。

1. 運営管理

(1) 施設は、契約に基づいた利用者本位の支援の提供を基本とするとともに、利用者への情報の提供、苦情解決（受付件数：0件）、第三者評価の受審（11月28、29日）等社会福祉法に基づく適正なサービスの提供と質の向上を図るため、体制の整備と職員一人ひとりの自己研鑽により、利用者のニーズに十分応えられる施設運営に努めるとともに、以下の整備を行った。

- ①事務室空調設備交換工事
- ②作業室・デイルーム暖房工事
- ③電動介護ベッド更新
- ④厨房食器洗浄機修繕工事
- ⑤居室入口ドア修繕工事

(2) 利用者の虐待の防止に努めるため「障害者虐待防止チェックリスト」を活用し調査を行うとともに、職員倫理綱領、職員行動指針の遵守と利用者の人権擁護に努めた。また、利用者が差別と感ずることや障壁を除去するために必要な合理的配慮の提供に努めた。

(3) 施設は、利用者の立場に立った施設支援を提供するとともに、できる限り居宅に近い環境で、地域や家庭との結びつきを重視した支援を行い、市町村のほか保健医療や福祉サービス事業者との連携に努めた。

(4) 個別支援計画策定会議開催し、利用者一人ひとりについて適切なアセスメントを行い、利用者のニーズに基づいた利用者の生活の質(QOL)を高めることに重点を置く個別支援計画を策定し、計画に基づいた適切なサービスの提供に努めた。

個別支援計画策定会議開催：中間評価15回（42ケース）、年間評価13回（41ケース）

(5) 利用者が施設において、安心・安全な生活ができるよう、アクシデントやヒヤリハットの要因分析や対策の実施など危機管理体制を強化し、事故の未然防止に努めた。

事故報告件数：裂傷・打撲（通院）2件 骨折事故（通院）1件（福島市へ報告）

ヒヤリハット報告、危険予知データ件数 38件

(6) 利用者の社会参加、地域住民との交流、地域との連携を深めるとともに、ボランティアの積極的な活用と受け入れ体制を整備し、社会、地域との交流促進に努める。以下のとおり参加した。

障害者週間記念事業実務担当者（2名）

中野地区展覧会実行委員（1名）実務者（1名）作品の出品参加（17名）

(7) 職員の資質向上と質の高いサービスを提供するために、障害者支援の専門性や技術等の向上のため、各種研修会等への参加はもとより施設内研修会、OJT及びOFF-JTの充実により職員の資質の向上に努めるとともに自己啓発援助制度を活用し自己研鑽に努めた。

外部研修会参加状況：12回 12名

内部兼修会参加状況：8回 53名

2, 利用者へのサービス提供について

(1) 生活支援

- ①利用者の意思と尊厳を保持し、人権やプライバシーに配慮した対応・支援を行い、利用者のニーズを反映した支援に努めた。
- ②利用者及び家族の意向、ニーズに沿った個別支援計画を策定し、それに基づくサービスの提供と再評価を行い、より利用者の意向に沿ったサービスが提供できるように努めた。
- ③障害の重度化・高齢化によりADLが低下している利用者について、介護外出、余暇活動支援等の訓練活動の充実に努めた。

介護外出実施状況：11回 26名

買物支援実施状況：22回 22名

- ④日中活動としてのレクリエーション・生産活動・機能維持訓練・余暇活動の充実に努め、自発的に参加する機会を提供するとともに地域社会に関われるボランティアを受け入れた。

リハビリテーション：個々の身体状況に応じた機能維持訓練を計画的に実施（木曜日午後）

福祉レクリエーション講座の開催：年3回開催（参加者75名）

余暇支援創作活動の実施：毎月開催 延べ150人

ボランティアの受入状況：飯坂町芸能協会、楽団ブーブカ、福島マジック愛好会
歯みがき指導、自衛隊曹友会

- ⑤年間行事・日中活動等をかきのとおり実施した

花見会（4月21日） 利用者42名 家族14名

法人主催納涼大会（8月2日）、けやき祭（9月30日）

芋煮会（10月20日） 利用者39名 家族21名

バスハイク・遠足：観光・食事・見学等の希望による日帰り旅行を実施

お楽しみ会：スイーツの日（年4回）

理 髪：第1、第3火曜日に実施 ※隔月1回

昼 の 会・グループワーク：毎月実施

生産活動：午前9時～午後3時を基本に個々の状況に応じて生産活動を実施

(2) 健康管理

- ①利用者の健康維持のため、個々の障害程度や健康状態を把握し、定期検診を実施するとともに、嘱託医師及び関係医療機関等との連絡を密にし、疾病の予防、早期発見・治療に努めた。

- ②利用者の健康診断を次のとおり実施した。

体 重 測 定： 月1回

嘱託医の診察： 月2回

結 核 検 診： 7月9日（胸部直接撮影：36名）

生活習慣病検診： 9月27日、2月28日（心電図、貧血、生化学：37名）

- ③感染症予防対策に努めた。

- ・感染症の発症及び蔓延防止の対策、日々の衛生管理の徹底、マニュアルに基づくインフルエンザ予防接種（38名）、「咳エチケット」の推進、マスク着用、うがい・手洗いの指導を行った。
- ・健康管理（睡眠・栄養・排泄）の把握と流行時期に先駆けて注意喚起を行った
- ・環境衛生の徹底と室内環境を整えた
- ・感染を最小限に抑えた

(3) 給 食

①給食は、利用者の楽しみにしていることのひとつであり、健康管理上もっとも大切なことであるので、利用者の嗜好に配慮し、必要な栄養量を満たした、安全でおいしい食事を提供した。

嗜好調査の実施 12月21日～1月11日

②給食委員会を毎月開催し、利用者の希望等を献立に反映させるとともに、嗜好調査を年1回以上実施し、利用者のニーズに合った食事を提供するよう心掛けた。

給食委員会の開催：毎月1回

③治療食については、献立、調理において対応するとともに、利用者個人に自覚を促し、栄養に関する支援を行うとともに、突発的な特別食についても体調に合わせた食事を提供した。

治療食の対応：カロリー制限、塩分制限、きざみ食、超きざみ食、ミキサー食

④利用者の要望に基づき、選択メニュー、バイキング形式、鍋物等を積極的に取り入れ、利用者に楽しい食事を提供した。

選択メニュー： 55回

バイキング： 3回

バーベキュー・鍋物：4回

⑤食品の保管には十分に注意し、常に調理室の整理・整頓・清潔を心がけるとともに、保健所等の指導のもと食中毒の予防に万全を期すよう努める。

防鼠・防虫施行管理業務：月1回委託

(4) 就 労 支 援 (生産活動)

①協力企業と連携し、地域の実情や景気の動向を把握し、受注の安定確保に努めた。

12業者から安定した作業量を確保した：年間事業収入 4,629,398円

作業工賃 3,950,000円

作業諸費 604,967円

②信頼される品質管理と効率よい作業工程の管理に努め、納期を厳守することに努めた。

③作業の開拓を常に心がけ利用者の個々の能力に対応できる幅の広い作業の確保に努めた。

④不良品が発生した場合、速やかに要因除去の対策を講じた。

⑤安全対策、不測の事態、バリアフリーに対応した働く場としての環境作りに努めた。

⑥工賃向上の目標値を設定するとともに、生産性向上を図るための改善に取り組んだ。

年間平均工賃：H29年度 22,583円 ⇒ H30年度 20,486円 (△9.2%)

⑦清潔、整頓を徹底し、働きやすい事業所の環境作りに努めた。

⑧委託加工部門の作業を下記のとおり実施した。

- ・ヘルメット加工
- ・ハーネス加工
- ・段プレートバリ取り作業
- ・服飾衣料資材(肩パッド)加工
- ・簡易作業(肩パッド、割箸、その他スポット作業)

⑨小規模ながらも事業所としての安定を図るために、関係機関と連携を図るとともに、情報発信とPR活動を推進し、利用者確保に努めるとともに、送迎業務についてもできる限り対応した。

(5) 非常災害・事故防止・防犯対策

- ①火災・震災・水害等あらゆる災害から利用者・職員等の生命の安全並びに被害を最小限にとどめることを目的に、避難訓練、防災対策協力者懇談会、防災講習会を実施した。
- ②年2回の消防設備の法定点検と、スプリンクラーの点検、非常口、建物の定期的な安全チェックに加え、利用者の使用している電気器具の点検ならびに、事故防止のための建物の巡視を日常的に実施し、事故発生の絶無と事故防止の徹底を図った。
- ③火災・震災・水害等の非常災害時には、青松苑消防計画に基づき、利用者、職員が迅速かつ適切な避難行動がとれるよう訓練の充実を図るとともに、法人内施設と連携を取りながら、地域消防団、地域の防災協力者の方々の協力を要請している緊急連絡体制が、有事の際、速やかにかつ有効に機能するよう訓練の徹底を図った。

避難・通報訓練の実施：11回（総合防災訓練1回、夜間想定防火管理検証年1回）

法人内合同通報訓練：年1回

飯坂消防署による防災教育：年1回

- ④災害発生時に一般の指定避難所での生活が困難な高齢者及び障がい者の方を受け入れるための福祉避難所としての機能の整備と非常食等の備蓄を図り、地域の避難所としてだけでなく東北ブロック被災施設への物資支援へ対応した体制整備を図った。

災害を想定し避難所開設の準備訓練、非常食・備蓄品、非常電源発電機の点検を実施した。

(6) 利用者状況

①施設利用状況

平成31年3月31日現在

	生活介護	就労B型	施設入所
定員	30名	10名	40名
利用者数	29名	12名	35名
延べ利用者数（年間）	7,376名	2,582名	35名（月平均）
1日あたり利用者（年間）	27.42	10.31	35

②新規利用者及び退所の状況

	新規	退所	退所者の状況
生活介護・施設入所	2名	1名	死亡
就労B型	1	0	
施設入所	0	1	就労入所から就労通所へ
合計	3名	2名	